

## ICT ができること (児童生徒編)

コンピュータは、基本的に「高速に計算ができる」「大量の情報を保存できる」「検索ができる」「機器を制御できる」機能を持っており、それらがネットワークにつながることによって、様々なことに役立っています。学習では、文字・音声・画像・映像等の各種メディアやデータを次のように扱う学習活動で高い効果を発揮します。

### A 収集する活動



児童生徒が、文字・音声・画像・映像等の学習するために必要な情報を取得する活動です。従来よりも多くの情報を、広い範囲から収集できます。

(例) インターネットで検索する、カメラ機能で画像や映像を撮る、Word、Excel、Power Point 等で作成した資料を共有する、オクリンクのカードを送ってもらう、ホームページで目的にあったデータを収集する、Forms でアンケートを作成して回答してもらう、など

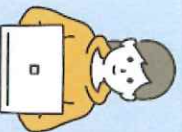
### B 繰り返し見 (聞き) 返す活動



児童生徒が、文字・音声・画像・映像等の学習するために必要な情報を繰り返し見 (聞き) 返すことが可能です。特に、特定の状況、特定の場所でないといと見られないものを記録して、何度も再生できることが強みです。

(例) ブログに保存した文字・音声・画像・映像を繰り返し再生する、オクリンクのカード情報を繰り返し再生する、など

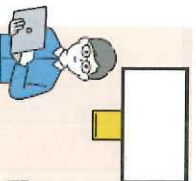
### C 編集・操作する活動



児童生徒が、文字・音声・画像・映像等の情報を編集・操作する活動です。紙に書く行為に比べ、複製ややり直しが簡単な他、キーボード技能が身に付くと短時間で多くの情報の編集、推敲などが可能になります。

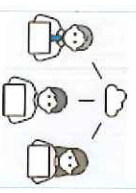
(例) Word、Excel、Power Point、White Board、オクリンクのカード、プログラミング用アプリ (Scratch)、ホームページを使ってみんなでカードを編集、など

### D 提示する活動



児童生徒が、文字・音声・画像・映像等の情報を提示する活動です。コンピュータネットワークを活用することで、従来よりも広い範囲に対し、時間を問わず提示することが可能になります。

(例) 大型提示装置に投影する、作成した資料を Teams で共有する、オクリンクのカードを送付する、など



### 情報の記録

これらの学習活動はクラウド上に記録することができます。また、小学校入学時から中学校卒業まで、いつでも取り出すことができます。